

# 総合研究大会の説明及び講演

於 刈谷市中央図書館

平成21年度愛知県高等学校工業教育研究会総合研究大会は、平成22年1月15日(金)に愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、愛知県工業高等学校長会の来賓を迎え、盛大に開催されました。挨拶に続いて、山口健先生(刈谷工高)、永坂勝弘先生(佐織工高)、岸本知之先生(佐織工高)による研究発表と、2009年技能五輪国際大会移動式ロボット職種金メダリストの(株)デンソー尾崎貴昭様から「技能五輪への取り組みを通じて」という演題で講演をいただきました。

## 講演内容概要

中学時代の尾崎さんは、「プラモデル作りが好き」、「資格を取り、手に職を付けたい」、「高校卒業後は国立大学へ進学したい」という少年だった。そんな彼に中学校の先生は、一宮工業高校を勧めてくれた。そして、電気関係の製造業に携わっていた父が、電気科を勧めてくれた。

高校1年の授業で、プログラミングを学んだ。その授業は、コンピュータの画面に結果が表示されるだけで、楽しいものに違いはないが、尾崎さんの好奇心を満足させてくれるものではなかった。2年生への進級にあたり、電子系ではなく電気系を選んだ。プログラミングの科目は電子系に多かったため、それ以降、高校時代に特にプログラミングを集中的に学ぶことも無かったが、逆に興味の対象として強く残った。電気系ではモーターなどの機器や、パソコン、周辺機器について学んだ。この知識は、入社後の日常的な仕事の場面や、移動式ロボット職種選手として訓練する上での土台となった。

2007年3月 一宮工業高校電気科を卒業し、同年4月、(株)デンソーへ入社、デンソー工業技術短期大学校高等専門課程で学び始めた。学園生の教育課程で、プログラミング授業があり、再び「楽しみ」を感じるようになった。1年が終わる頃、社内選考で技能五輪移動式ロボットの選手に選抜された。技能五輪のことは、高校3年の会社見学の際に知った。いざ選手に選抜されたものの、「訓練に耐えられるのか」、「最後までやり抜くことができるのか」、「会社の看板を背負うこと」、考えれば考えるほど不安が襲った。反面、「メダルを取りたい」という気持ちもあった。考え抜いた結論は、「こんな大舞台に、チャレンジできる機会は二度とないかもしれない。」となり、ここから選手としての生活が始まった。

移動式ロボット職種に必要なことは3つ。一つめはプログラミング技術である。ロボットに、させたい動きを数式化し、プログラミングする能力である。二つめは組立技術であり、ロボット本体を組み立てる知識と技能である。三つめは、チームワークである。この競技は2人で一組のため、互いの知識・技能を向上させるためにもチームワークは不可欠な力である。相棒が考えたことは、直ぐに共有化し、自分の力とした。無論、その逆もしかりである。こうした練習(=チームワーク)に時間を注ぎ込んだ。

2009年9月カナダ カルガリーで行われた技能五輪国際大会に出場、51カ国、859人の選手が4日間の課題に取り組んだ。他国の実力は気になっていたが、1日目が終わると同時にその心配は消えた。1日目の課題をクリアできたのは、自分たちと韓国チームだけだった。しかし、決してベストパフォーマンスが発揮できたとは言えなかった。細かなミスが目立つ。2日目も幸先良く課題をクリアしていったが、2日目の終了と同時に事態が一転した。主催者より各チームに提供された

ロボットや機器類にトラブルが続出していた。2日間の成績は全てキャンセルになった。明日からは、0からのスタートということになった。日本チームはミーティングで「気持ちの切り替え」を行った。目指すは結果ではなく、ベストパフォーマンスを見せることとした。移動式ロボットの会場は、競技を見られるよう観覧席があり、毎日、多くの人に関心を持って見ていた。3日目、4日目、気持ちの切り替えが功を奏し、練習どおりのパフォーマンスを見せることができた。観客のみならず、審判からも盛大な拍手を得た。

悔いは無いというものの結果発表は、緊張した。3位 同点のため「シンガポール」と「台湾」、2位は該当チーム無し、優勝「韓国」の名が呼ばれた。そして、「日本」。なんと優勝は2チーム。今までに感じたことのない喜びを噛みしめ表彰台へ上がった。

世界には、同年代の技能者がたくさんいる。彼らと競い合えたことは、自分達を育ててくれたコーチ陣、日本で応援し続けてくれている社員や家族のおかげだ。そして、高校時代にプログラミングの楽しさを感じたからこそ、今の自分があると思う。高校時代の勉強が土台となっていることは間違いない。今後は、この経験を土台にし、後輩の育成にも携わって行きたい。

と、発表を終えた。3年前まで、私たち教員の手元にいた生徒が、3年経って大きく変わっていました。私たちも”教える”ことの難しさに悩むことがありますが、愚直になって教えることが優秀な人間を育てることになると信じて、取り組んで行きたいと講演を拝聴して感じました。



写真1 講演する尾崎様